

JISA ソフトウェアイノベーションシンポジウム 2025

ー未来を切り拓く人と技術の新たな挑戦ー

開催報告

令和 67 年 12 月 18 日（木）、JJK 会館において、技術委員会（委員長：富安寛 (株)NTT データグループ常務執行役）主催のシンポジウムが、会員企業エンジニアを中心に約 150 名（現地：約 90 名、オンライン：約 50 名）の参加を得て開催された。

午前中のセッションでは、技術委員会エンジニアリング部会が企画・運営をする「「戦略的 AI 活用による要求工学知識体系の実践ガイド」に寄せて ～著者らとのゆるトークワークショップ」が開催され【ライトニングトーク】【ポスターセッション】が行われた。

午後のセッションでは、富安委員長の開会挨拶ではじまった。基調講演では、白肌 邦生氏（北陸先端科学技術大学院大学 トランスフォーマティブ知識経営研究領域 教授）より、「ポスト成長時代の知性と情報技術者の役割」があった。次のセッションでは、平本健二氏（独立行政法人情報処理推進機構（IPA）デジタル基盤センター長）、小阪 暢之氏（株式会社チェンジビジョン 代表取締役社長）、端山 毅氏（独立行政法人情報処理推進機構

（IPA）ソフトウェアモダナイゼーション委員会委員長、株式会社 NTT データグループ 技術革新統括本部）による、パネルディスカッション「デジタル化による価値創出に向けて～モデリングによる分析と対話の促進～」があった。

その後、経験報告セッションでは、本年度は「未来を切り拓く人と技術の新たな挑戦」をテーマとして、社会にインパクトを与える問題発見や顧客価値創出、生成 AI 等最先端技術等を実践、検討している事例を積極的に募集し、10 件の【ライトニングトーク】【ポスターセッション】が行われ、講演者と参加者との交流が行われた。

シンポジウムの最後に表彰・閉会挨拶・情報交換会パーティが開催された。表彰では、経験報告発表の中から、東芝デジタルソリューションズ株式会社 鈴木 昂裕氏、共著者：前田 尚人氏、有山 卓志氏「「現場の困りごと」から始めたレビュー支援ツール開発の取り組み紹介～生成 AI を活用した設計レビューの定着～」がベストプラクティス賞、株式会社 NTT データグループ 河間 光祐氏、共著者：兼清 裕平氏、何 瓣氏が奨励賞として表彰された。

（溝尾）